

平成28年度 第3回恵庭市水と緑のまちづくり審議会（議事要旨）

日 時：平成29年2月14日（火）10:00～12:00

場 所：市役所（3階） 301・302会議室

出席者：【委員】（11名）

池永 允子・内倉 真裕美・内田 信一・大塚 武・岡田 宏一・岡本 浩一
尾谷 百合子・斉藤 浩二・豊田 栄・野原 聡・吉田 愛子

【市】（9名）

（市長）原田 裕・（企画振興部長）後藤 昭悦・（企画振興部次長）大槻 雄二
（建設部次長）石川 義晴・（管理課主幹）萩原 由紀夫・（管理課主査）林 辰徳
（花と緑・観光課長）茅野 寿也・（花と緑・観光課主査）前田 孟志
（企画広報課主査）早川 剛志

【事務局】（3名）

（まちづくり推進課長）岡田 貴裕・（まちづくり推進課主査）遠藤 美樹
（まちづくり推進課主任）安藤 友晶

【傍聴者】（1名）

欠席者：【委員】（2名）

山口 裕美・三浦 真吾

- ・事務局より「平成28年度水と緑のまちづくり表彰の被表彰者について」の諮問書の提出
（市長より会長へ手渡し、コピーを委員各位へ）

■議事1 恵庭市公共施設花づくり基本指針・整備運営実施計画（案）（報告）

事務局より「恵庭市公共施設花づくり基本指針・整備運営実施計画（案）」について報告

（委員からの質疑なし）

■議事2 街路樹の維持管理について（意見交換）

「街路樹の維持管理について」建設部管理課より報告、事務局より話題提供、広報特集「街路樹について考える」に対する市民意見紹介

（A委員）

街路樹の樹間は基準が存在するのか、各市町村で基準が違うのか？

（建設部）

恵庭市では基準を設けていない、他市では10m以上と言う規制を設けているところもある。

（A委員）

現在恵庭市では樹間はどれくらいか？

（建設部）

短い所で7m程度、広い所で10m以上、路線によって違う。

（B委員）

清掃活動のイベント化、街路樹管理の仕様書作成、樹木の専門知識を持った担当者の採用・育成・配置、市民からの苦情へは仕様書に従って対応する、街路樹管理の仕様書を公開し啓発・理解を求めていく、地域の奉仕活動を推奨する日を作る等を行って欲しい。

(C委員)

景観上の問題の前に、落ち葉による雨水桝の詰まりやスリップ事故の防止、交通安全・防犯上の問題について、「なんとなくそうだろう」でやってしまっていないか。最近は電線・電話線を優先している風潮があるように感じる。

自宅前のイチョウでは雨水桝が詰まったり事故を起こしたと言う話は聞いた事がない、何が問題なのかをはっきりさせた方がよい。

(建設部)

苦情はプラタナスに関してが殆どで、交通安全上の問題や雨水桝の詰まり、民地側への落葉等を理由とした落葉前の剪定要望が多い。

(D委員)

現状だとプラタナスの葉が少しでも出たら切ってしまっている、どういう葉かを見てもらう期間が欲しい。

(建設部)

本来であればそうしたいが、苦情が多く対応せざるを得ない、落葉後では雨水桝、交通事故の関係、民地への落葉に対応できなく、他市でも殆どがそのように対応している模様だ。

(D委員)

他の樹種に変えてしまってはどうか。

(建設部)

費用等も含め難しい。なるべく落葉が少ない樹種を選択したいが、多数の街路樹がある中では困難。景観を考慮した剪定を行うのが一番良いが、苦情・要望が多く、対応している状況。

(D委員)

プラタナスが裸同然に剪定されているため、「花ガイド」の活動中、この樹についての説明が難しい。恵庭の街路樹は大変きれいだが、プラタナスだけはこのような状態だ。

(建設部)

近年は地先の方から万ケーブルが切れたら困るので対処して欲しいという要望が多い。
電力会社等からも、防止の為に街路樹を剪定させて欲しいと言われるため、都度協議を行う。
必要最低限の剪定では景観上バランスが悪くなるため、全体に配慮しながらの剪定方法を協議し行っている。

(C委員)

剪定後に写真等で確認しているのか？

(建設部)

確認はしていない。

(C委員)

著しく剪定されているものが半分位はある。
強剪定しても構わないという認識があるのではないかな。

(建設部)

地域要望も重視して行っている。確かに電力会社等も強剪定して構わないという認識があるかも知れないので、その部分は協議しながらやって行きたい。

(C委員)

自然災害があっても、街路樹が電柱の倒壊を防止している事が多い、枝は上に向かわないのだから、その部分をガードしておけば良い。

(建設部)

電力会社等が剪定する際に地先の方が出てきてその場でもっと切って欲しいと要望される事が多いようである。

昨年イチョウの強剪定が話題になったが、あの時も地域の方はもっと切って欲しいと要望された。

今後は市として水と緑を守るため、剪定は最低限にするようお願いしていかなければいけないと思う。

(B委員)

事業者向けの剪定方法の講習会を開いてはどうか、市民から切るように要望があっても仕様に従ってやっていますと言えるようになって欲しい。

(建設部)

維持管理作業者のスキルアップをはかり樹形の維持等に努めていきたい。

現在は実務研修に参加し技術の蓄積とスキルアップをはかる取り掛かりの段階である。

(B委員)

街路樹以外の民地の樹でも景観上素晴らしいものがあるので、それに対する認定制度のようなものがあれば良い。

また、街路樹の特区も作って欲しい、少しずつそういった場所を増やして欲しい。

(C委員)

植木屋業界では50～60年街路樹交換説があるため、皆悩まれている。苦情があるからと、切る、樹種を変えると、剪定ではなく伐採になっている。景観もなにもなく、樹種の価値もなくしてしまう。

樹が盆栽みたいなきれいな形をしていたら価値観を認めるだろうし、色々な広報活動も絡めていかないと、いつまで経っても邪魔者扱いになる。

紹介された市民の意見等、今の時代は相当な苦情がある。何とか解決したいとはいつも考えている。

(E委員)

全町内会で街路樹のあるところにボランティア袋を配布し、町内会で指定日に回収をしてはどうか、個人で市に回収まで依頼するのは大きな負担である。

自宅の周りや町内会をきれいにしたい方はたくさんいると思うので、サポートがあればもう少し落ち葉に優しくなれるのではないかな。

電線等を優先して強剪定された街路樹を見て、これが緑を大切にしている恵庭市の街路樹なのかと強烈な印象を受けたので、プロの方の意見も参考に剪定の仕方を工夫して、さすが恵庭だねと言われるようになって欲しい。

(D委員)

5月30日のゴミゼロの日の他、秋頃にもう1回清掃の日を決めてはいかがだろうか？

一部町内会では5月、10月に道路沿いの家庭に袋を配布し、環境衛生部長が見回りを市に回収依頼を行っている、各町内会でも同様の取り組みをしてはどうか。

(建設部)

現状でもボランティア袋は各町内会に配布しており、各町内会内で運用している。直接市と連絡を取って配布しているところもある。

町内会活動が盛んなところでは、そのような取り組みをしているが、ボランティア袋の利活用については周知・回収方法について改善していきたい。

■議事3 平成28年度水と緑のまちづくり関連事業報告

■議事4 平成29年度水と緑のまちづくり関連事業計画

経済部花と緑・観光課より資料説明

(委員からの質疑なし)

■議事5 平成28年度水と緑のまちづくり表彰の被表彰者について(諮問)

経済部花と緑・観光課より説明

(委員より意見なし、答申は会長に一任頂く事について委員より異議なし)

・各専門家よりコメント

(F委員)

街路樹を扱う時は樹木の持っているシステムを頭に入れ、剪定は休眠期に行って欲しい。

樹木が持っている防御組織を壊さないように剪定を行い、また、特性・個性を発揮させる管理目標、樹形を仕立てて欲しい。

落ち葉の回収は地区によってはやっているようだが、更に周知して欲しい。

夏場の葉がついているうちは極力剪定しないように、毎年繰り返すと樹の体力が落ち病原菌やキノコの胞子がついてしまう。

専門知識のある担当者を置いて地域住民の方と意見交換をして、管理体制を含めて進めていけば、恵庭市独特のきれいな街路樹づくりになると思う。

(G委員)

市の緑に対するビジョンが分からない、伝わってこない。

どこを重点的にやるのかメリハリをつけ、行政としても市民としても力を注いで欲しい。

市がビジョンを明示しておかないと、あちらにもこちらにもお金がかかることになりかねない。

街路樹の維持管理を考える際に、路線ごとの街路樹の密度と、交通量・乗降客数等を考慮した数字で検討すべき。

(副会長)

「公共施設の花づくり指針(案)」は予算や関係課の情報が整理されており良いと思う。

作った後の進行管理をしっかりやって頂きたい、予算が減らぬよう、必要であれば年々増やして行けると良い、メリハリをつけて必要がない所は削るなど柔軟に運用して欲しい。

多分全国でもない程の計画書なので頑張って頂きたい。

街路樹の悩みはこの先もずっと出てくる話であり、議題の「街路樹の維持管理について」の視点3(※維持管理の基本的な考え方・進め方(案))と視点4(※具体的な取り組みアイデア(案))について、市としての指針を早くまとめて市民に伝えるべき。

個人的には落ち葉は資源だと考えている、恵庭市は農業もあり花づくりをしている方も居る、全部でなくとも堆肥として活用できたら良いと思う。

樹木の成長、景観の事を考えて、必要に応じて街路樹の間伐や樹種の変更も柔軟に考えて良いと思う。

恵庭のまちは圧倒的に街路樹肯定派が多いと思う。

(事務局)

花づくり指針については体系づけて細かい数字を挙げた、他市の参考例になればと思う。

7月、8月位に、もう一度議論を頂いた後に方向性を市民に諮って、29年度後半、30年度に実際にメリハリをつける、路線を選定する事等を行って行きたい。

(会議終了)